



第9週8月28日(雨)

東名グラウンド(2)グラン

第2試合【3回戦】浜風3勝

浜風、下位打線が大活躍で毎回得点！首位戦線に踏みとどまる

	(1)	(3)	(2)	(1)	(3)	(2)	計	安打
浜風	1	4	1	1	1	3	11	(12)
浜翔	0	2	0	0	0	0	2	(4)
	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)		審:及川

【勝】山下 8勝 3敗(1)
【S】後藤 2敗 3S
【敗】川崎 5敗 3S

MVP: 富岡 V打点: 新川
本塁打: 島2号(浜風)
大谷1号(浜翔)
三塁打: 本末(浜翔)
二塁打: 亀田宏・新川(浜風)



勝負を決めた2点適時打(富岡)

浜翔				浜風							
守	氏名	打数	安打	打点	通算打率	守	氏名	打数	安打	打点	通算打率
9	入江	3			.348	8	亀田宏	3	2	1	.313
3	新垣	2	1		.269	7	上原	3			.361
4	平野	2			.281	6	新川	2	2	1	.548
6	軽部	2			.282	5	後藤	2		1	.324
2	本末	2	1		.447	1	山下	2			.278
7	大谷	2	1	2	.313	2	島	2	2	1	.414
8	廣野	2	1		.212	3	関根	2			.324
1	川崎	2			.263	9	伊藤慎	1		1	.172
5	大石	2			.176	6	高橋茂	2	1	1	.222
D	高島	2			.120	D	網倉	3	1	1	.162
D	弘中	2			.037	D	鈴木	3	2	1	.400
						D	富岡	2	1	2	.069
						D	佐々木	2	1		.120
チーム計 23 4 2 .174				チーム計 29 12 10 .414							

※守備位置はスタート時

投手	回数	安打	四球	三振	自責	投手	回数	安打	四球	三振	自責
川崎	4	7	2	1	5	山下	4	3		3	2
大谷	1	3	2		1	後藤	2	1			
平野			3		3						
大石	1	2									
チーム計 6 12 7 1 9				チーム計 6 4 3 2							

浜風が毎回得点で11点を挙げ、浜翔を圧倒。亀田、新川、島の上位の活躍もさることながら、この日は下位打線が大活躍。初回、新川の適時打で先制すると、2回には島の本塁打の後、2四球で好機を作ると鈴木、富岡の2点適時打で4点。5回には走者を置いて佐々木が右前にうまく運んで好機を広げ、亀田の適時打を呼び込んだ。6回には三四死球で得た無死満塁の場面で伊藤がスクイズ、高橋茂が左前適時打、最後は網倉が遊撃後方にポトリと落とし3点を挙げた。対する浜翔は2回に大谷の左越え本塁打が飛び出しても、それ以降は山下一後藤に散発2安打に封じられ、投げては先発・川崎から大谷、平野、大石と繋いだ。浜風に毎回得点を許し完敗した。前週の敗戦で首位戦線から一步後退した浜風だったが、これで再び巻き返しなるか注目される。(港南:菅)

第3試合【4回戦】港4勝

港、横綱相撲で快勝、港南惜しまれる序盤の大量失点

	(2)	(0)	(0)	(0)	(1)	(2)	計	安打
港南	2	0	0	0	1	2	5	(5)
港	5	8	0	1	0	X	14	(11)
	(5)	(5)	(1)	(0)	(0)	(0)		審:五十嵐

【勝】斎藤 10勝 2敗(1)
【S】石川伸 3S
【敗】佐久川 3勝 9敗

MVP: 川邊 V打点: 川邊
三塁打: 石川伸・川邊(港)
二塁打: 中路(港南)・犬塚・川邊(港)



2安打3打点で勝利打点(川邊)

港				港南							
守	氏名	打数	安打	打点	通算打率	守	氏名	打数	安打	打点	通算打率
6	山脇	1			.313	6	菅和	2	1		.345
4	犬塚	3	2	2	.362	8	堀内	3			.267
5	石川伸	4	3	4	.455	1	佐久川	2			.243
8	川邊	3	2	3	.459	5	土門	1		1	.325
1	斎藤	3	1		.313	3	中路	3	2	2	.282
2	三輪	3		1	.422	7	岩田	3	1		.324
3	森田	4	1	1	.268	2	古川	2	1		.231
7	小笠原	3	1	1	.265	9	日高	2			.267
9	竹内	3	1	2	.268	4	小林正	1			.067
						D	乙戸	1			.381
						D	太刀岡	2			.077
						D	高橋信	2			.040
チーム計 27 11 14 .407				チーム計 24 5 3 .208							

※守備位置はスタート時

投手	回数	安打	四球	三振	自責	投手	回数	安打	四球	三振	自責
斎藤	4	2	2	3		佐久川	1 1/3	9	7		13
石川伸	2	3	3		2	乙戸	3 2/3	2		1	
チーム計 6 5 5 3 2				チーム計 5 11 7 1 13							

首位港の独走阻止の期待を背負った港南は、初回菅の四球から2死三塁のチャンスを作り、ここで土門のセカンドゴロを大事に処理しようとした犬塚が後ろに逸らし1点をあげ、続く中路の左中間安打で幸先よく斎藤から2点を先取する。しかし、今年の港は初回の2失点を苦にしないパワーがある。その裏山脇四球の後、犬塚、石川伸、川邊、斎藤の4連打と2つの内野ゴロで5点をあげてあっさり逆転する。さらに港は2回にも5安打6四死球と打者14人の猛攻で8点を追加し試合を決めた。港南は、終盤3点をあげる意地を見せたが、時すでに遅く大勢を覆すことはできなかった。試合の流れが決まったことの影響もあったかもしれないが、2回途中から佐久川をリリーフした乙戸が、港を2安打1点に抑えただけに、港南にとっては序盤の大量失点が惜しまれた。MVPは勝利打点と2安打3打点の川邊が選ばれた。(浜風:山下)